

特集 VOL.3

病院・高齢者施設の環境づくり

高齢者施設のインテリア

1.はじめに

今回は高齢者の施設や高齢者病棟におけるインテリア計画について、考えてみたいと思います。高齢になるとどんなに健康な人でも心身機能が低下します。その変化を理解した上で院内のインテリア計画を行う事が大切です。五感の変化に対して、家具や壁の色にも配慮が必要になります。そして大切なのは、家と同じように“暮らす”場所である施設が心豊かに過ごせるかどうかでしょう。安全な場づくりと気持ちが少しでも明るくなれるような場づくり、その両面が求められます。では、まず高齢になるとどのような心身の変化が起こるかを見て参りましょう。

2.高齢になると起こる心身の変化

高齢になると下記のような心身の変化があります。

- ①視覚：視力の低下、明暗に順応する機能の低下、視野狭窄、水晶体黄変など
- ②触覚：温度感覚の低下、痛みを感じる感覚の低下など
- ③聴覚：聴力の低下、特に高い周波数の音が聞こえにくい。明瞭に聞こえないなど
- ④味覚：味を感じにくくなる。食欲が落ちるなど
- ⑤嗅覚：匂いを感じる機能の低下、嗅覚障害など
- ⑥その他：骨量、筋力低下、認知機能の低下など

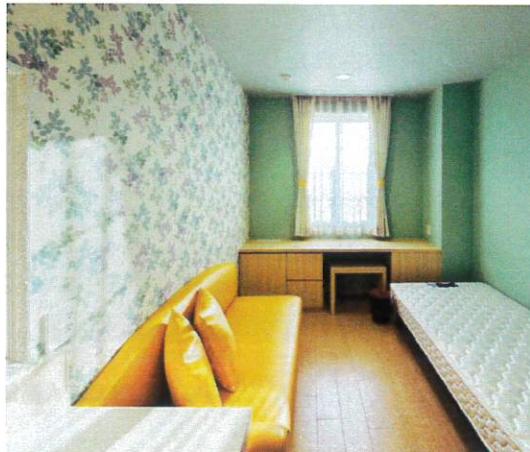
3.注意すべきポイントとインテリアで出来る対策

①視覚の機能低下の為に

- a. 床と壁の違いがわかるように色をはっきり分ける（明度差、彩度差をつける）



床と家具の色が同化して
ソファの位置がわかりにくい例



床と家具の色の差がありソファ
の位置がわかりやすい例

- b. 青、緑、紫など波長の短い色の区別がつきにくく、黄、赤など波長の長い色は区別がつきやすい。トイレのドアなどわかりやすい色（黄・赤・橙など）が良い。
- c. 照明は電球の色温度を使い分ける。

休む場所か活動する場所かを考えて色温度を変える工夫。休む場所は電球色、行動する場所は昼白色のように。一番色温度の高い昼光色も高齢者には好まれるが、顔色や物が青白く見えるので注意を要する。

病院・高齢者施設の環境づくり

②触覚の機能低下の為に

- a. 家具に用いる素材は周りの温度の影響を受けにくいものを選ぶ。鉄やステンレスは熱くなりやすく、冷たくなりやすいので注意を要する。椅子のフレームやドアの握り棒、手すりなどは木質系やプラスチック素材などが熱くなりにくく冷たくなりにくいので適している。
- b. 触れても擦りむいたりすることのない安全な材料を用いる。

③聴覚の機能低下の為に

- a. 音が反射しやすいガラスや金属だけでインテリアを構成せず、音が吸収される環境を整える。(吸音パネルの使用や木材の使用など)
- b. テレビなどの音を大きくするだけでなく、最近はスピーカーの振動板を曲面形状にし、放出された音がエネルギーを失わず、遠くまで聴こえる仕組みのスピーカーも商品として出ています。

④味覚の機能低下の為に

- a. 食欲が落ちるので食べなくなる様な演出をする。青系の色は食欲を落とすのでオレンジや黄色系の色を近くに置くと良い。
- b. しづる感を出す。唾液が出やすくなるような工夫。

⑤嗅覚の機能低下の為に

- a. 香りの効能を取り入れる アロマなど。
- b. 昔懐かしい香り、食事を準備しているおいしそうな匂いなど。

⑥骨量・筋力の低下の為に

- b. ぶつかってもケガをしないよう端部の形状を工夫する。
- c. 手・指の巧緻性が低下するので、操作の必要な部分は使い勝手に配慮が必要。
- d. つかまつても倒れたりしないような安定感のあるものを選ぶ。
- e. 可動域が狭くなるので、低い位置、高い位置に置く物に気を配る。

⑦認知機能の低下

- a. 手指の動きが鈍くなってくるので、把手、つまみ、鍵などは大きめのものを選ぶ。つまむ動作は特に難しくなるので、手を掛けられるよう一文字型把手が使いやすい。
- b. 引き出しへは高い位置、あるいは腰をかがめなければ使えない位置は避ける。
- c. 開き扉より引き戸で開閉できる様にする。

(出典協力：NPO法人高齢社会の住まいをつくる会 名誉会長 吉田紗栄子氏)

4.事例紹介

福岡県の医療法人 八女発心会 姫野病院をご紹介します。

姫野病院は「すべては地域の元気のために」をモットーに急性期から在宅医療まで地域のための心ある医療を目指しています。2015年にタワー棟を新築され、病院機能の他、有料老人ホームを開設。その際にインテリアデザインを担当させていただきました。

病院・高齢者施設の環境づくり

入院による集団生活の煩わしさ、同室者への気づかい、食事、睡眠など生活パターンの激変によるストレスをできるだけ軽減できるようにと理事長や院長も自ら様々なアイディアを出れ、インテリアにおいても発展的なこちらの提案を受け入れて下さり、患者さんが日常を楽しめるようにとユニークな病院ができました。

①有料老人ホームのコンセプトは世界旅行

フロアごとにハワイ・フランス・オランダ・イタリア・日本と旅をするようにインテリアコンセプトをつくりました。エレベーターを降りたその瞬間に各国のイメージの色彩と「こんにちは」の言葉。

例えばハワイの階なら「ALOHA！」、イタリアの階なら「CIAO！」が出迎えます。

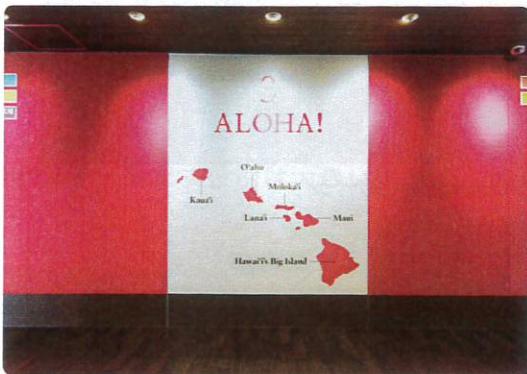
各フロアの色彩をガラリと変えることで、自分の滞在フロアがわかりやすくなり他のフロアを間違って歩いていたなんていう事も予防できます。



オランダ階のエレベーターホール



イタリア階のエレベーターホール



ハワイ階のエレベーターホール



日本階のエレベーターホール

② 廊下を楽しく歩く工夫

入院生活では歩くのが億劫になります。歩かなくなると寝たきりへの道にまっしぐら。なるべく日中は活動して頂き、夜ぐっすりお休み頂きリズムは、人間らしい生活を送るにあたって大切な事だと思います。殺風景な廊下は同じ距離でも長く感じます。高齢の患者さんが自発的に歩きたくなるように廊下にも工夫が必要です。

姫野病院では、テーマが世界旅行ですので各フロアの廊下を「通り」に見立てて街を歩く様な楽しさを考えました。例えばイタリア階なら「フィレンツェ通り」「ミラノ通り」「ベネチア通り」「ローマ通り」という風に。さらにデイルームは皆が集まる広場に見立て「ヴァチカン広場」と名付けました。

病院・高齢者施設の環境づくり

廊下に並ぶ各個室の部屋のサインも番号だけでなく「エスプレッソ」や「ジェラート」など思わず微笑むようなアイコンを一部屋一部屋175室すべてに付けました。患者さんが、それらを見て歩くだけでも廊下を楽しく歩けるように。そして自分の部屋がジェラートの部屋だなんてトキメキますね。



イタリア階 廊下の通りのサイン



イタリア階 廊下の突き出しサイン



ハワイ階 廊下の部屋サイン



いろいろな部屋のサイン

③選べる椅子のサイズ

高齢になると身体のサイズが変わります。椅子が大きすぎると身体がずり落ち、食事の体制や正しい姿勢が維持できなくなり、それが食欲減退に繋がる事もあります。

姫野病院では昼間、レクレーションや食事をするデイルームの椅子を5サイズ設けました。

XS・S・M・L・XLの5種類です。種類は多いと思われるかもしれません、XSとXLの方にはなかなか合う椅子が無いため、S・M・Lに加えて造りました。遠くからもサイズが一目でわかるように色をそれぞれ変えました。

また安全性のポイントである、脚が安定していること、肘掛けが適切な高さに付いていること、張替可能なビニールレザーであること、座面と背もたれが分かれていること等の要件も満たしています。

なかなか日本のメーカーでこのように細かな対応をしてくれる所は少ないので家具メーカーのオリバーさんが試作を重ねて作り上げてくれました。

入居者さんは、一目での色は自分の椅子だと認識できます。適切なサイズのマイチェアがあること、それは座る時間を快適に過ごして頂く大切な工夫のひとつです。

病院・高齢者施設の環境づくり



5.まとめ

高齢になると変化する心身の特徴を踏まえたインテリア計画は、特別な事ではなく身近に習慣的に行っていることが多いと思います。インテリアは総合的なものなので椅子のサイズにだけこだわっても空間としてのバランスがよろしくなければ残念な事になります。床・壁・天井の素材や色選び、そしてそれが患者さんの心理的に、どう作用するかを検証しながら作り上げる必要があります。

今回ご紹介した姫野病院では「世界旅行」というテーマを早い段階で作ることができたので各国の色や形のイメージは統一され纏まりやすかったと思います。

高齢者病棟において安全性は重要ですが、それだけにとらわれず、インテリアとして美しい環境を提供することは、寂しくなりがちな場所を楽しくしワクワクする場所に変身させてくれます。それは患者さんにとって明日へ向かって生きる希望に繋がります。インテリアが果たす役割は大きいのです。次回は海外の高齢者施設をご紹介します。



戸倉 蓉子

【プロフィール】

株式会社ドムスデザイン 代表取締役
慶應義塾大学病院にてナースとして勤務後、
病院の環境を変えたいと建築デザイナーに転身。
看護師と一級建築士の資格を持つ建築デザイナー

【著書】

医療の場を整える環境デザイン（日本看護協会出版会）